

授業概要

この授業では戦後日本の歴史を「経済」の側面から概観する。戦後復興と高度成長を中心テーマとするが、具体的には、①アメリカ主導で遂行された戦後改革の過程と意義、②日本政府独自の経済復興政策（「傾斜生産方式」）、③高度経済成長の過程と要因（設備投資、技術導入・技術革新、政府の役割、所得増と大衆消費市場の成立、良質な労働力の確保、国際貿易、平和な国際環境）、④オイルショック、円高、貿易摩擦への日本の対応など、いくつかのサブテーマを通して、戦後日本経済の復興・成長過程を講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（講義内容、講義方法、評価方法、参考文献など）
第 2 回	アメリカの対日占領管理方式の特徴
第 3 回	戦後経済改革① 農地改革
第 4 回	戦後経済改革② 労働改革
第 5 回	戦後経済改革③ 財閥解体
第 6 回	「傾斜生産方式」、ドッジライン、朝鮮特需
第 7 回	財閥から企業集団へ
第 8 回	中間テスト
第 9 回	技術導入と技術革新
第 10 回	高度経済成長と設備投資
第 11 回	高度経済成長期の産業政策
第 12 回	所得増と大衆消費市場の成立
第 13 回	オイルショックと高度経済成長の終焉
第 14 回	高度成長の負の遺産
第 15 回	日本経済のグローバル化
第 16 回	期末試験（筆記試験）

到達目標

- 1、戦後改革の意義・影響および高度経済成長との関連を概ね理解できる。
- 2、日本の産業・企業が戦後混乱期から立ち直った歴史的経緯を知ることができる。
- 3、大量生産・大量消費から持続可能な社会への時代の変化を深く理解できる。

履修上の注意

遅刻・早退、授業中の私語・スマホ操作は厳禁する。
6回以上無断欠席した場合、期末試験は受けられない。

予習・復習

- 1、指定された日本経済史関連参考書は一冊を通読することが望ましい。
- 2、事後学習として、配布資料およびノートをしっかりと読み返し、内容への理解を深めること。

評価方法

期末試験（50%）、中間テスト（30%）、授業態度 20%）を総合して評価する。

テキスト

特に使用しない。講義内容に応じてプリントを配布し、参考文献を適宜指示する。